

詩篇105－108篇「不信実にある主の慈しみ」

1A 主の確かな約束 105

- 1B 主へのほめ歌 1－7
- 2B アブラハムへの契約 8－15
- 3B ヨセフへの試し 16－24
- 4B 出エジプト 25－42
- 5B 約束の地 43－45

2A 人の不信実と神の真実 106

- 1B 主の慈しみ深さ 1－5
- 2B 紅海での逆らい 6－12
- 3B 荒野での逆らい 13－33
- 4B カナンの地での偶像礼拝 34－43
- 5B 契約を思い起こされる主 44－48

3A あらゆる苦しみからの救い 107

- 1B 四方からの帰還 1－3
- 2B 放浪する生活 4－9
- 3B 苦役 10－16
- 4B 病 17－22
- 5B 過信による失敗 23－32
- 6B 知恵のある者 33－43

4A 揺らぐ確信 108

- 1B 揺るがぬほめ歌 1－5
- 2B 愛されている者の救い 6－13

本文

1A 主の確かな約束 105

詩篇 105 篇を開いてください。私たちは詩篇の第四巻を今日、読み終えて、それから第五巻にも入っていきたいと思います。前回の学びでは、「主をほめたたえよ。」という呼びかけの詩篇でしたが、その続きです。104 篇では、主の造られた被造物を、創世記1章にある天地創造を思い起こしながら、その恩恵を歌っていました。それを私たちは「一般恩寵」であると学びました。そして105 篇では、「特別恩寵」を見ていきます。神がご自分の言葉をもって、約束を与え、契約を結んでくださいました。その言葉を守ってくださっていることをほめたたえています。

1B 主へのほめ歌 1－7

105:1 主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。105:2 主に歌

え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざに思いを潜めよ。105:3 主の聖なる名を誇りとせよ。主を慕い求める者の心を喜ばせよ。105:4 主とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。105:5 主が行なわれた奇しいみわざを思い起こせ。その奇蹟と御口のさばきとを。105:6 主のしもべアブラハムのすえよ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。105:7 この方こそ、われらの神、主。そのさばきは全地にわたる。

主に感謝して、主の名を呼び求めるように、呼びかけています。一つ一つ呼びかけが、意味がありますね。まだ神を知らない人々、国々に知らせなさいという宣教命令があります。そして、奇しいみわざに思いを潜めよ、とありますが、それがこれから歌っていく、イスラエルに対する神の大いなる業についてのことです。そして、聖なる名を誇りとすることによって、主を慕い求める者たちの心が喜びます。いかがですか、私たちが他の人々の主の御名を誇る言葉を聞いて、自分が主を求めているならとても心が喜びます。そして、その奇しい業を思うことによって、今の自分たちが主の力を求めて、御顔を慕い求めるのです。過去の主の偉大な業を見て、「古き良き時代であった」と懐かしく回想するだけはいけない、ということです。その時にすばらしい業を行われた神は、私たちにも全能の力をもって臨んでくださるということでもあります。

そして、アブラハムの末よ、と言っています。ここが大事です、アブラハムに神が約束を与え、契約を結んでくださったからです。その子孫は神に選ばれた民であり、ゆえにアブラハムの祝福にあずかることができます。

2B アブラハムへの契約 8-15

105:8 主は、ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。105:9 その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。105:10 主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。105:11 そのとき主は仰せられた。「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナン之地を与える。」

非常に重要な契約です。主がアブラハムに対して与えられた契約は、永久のものであるということに気をつけてください。「創世 17:4 わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。」と主はアブラハムに言われました。他の箇所では、「あなたによって、すべての民が祝福を受ける。」ともあり、また、「あなたの子孫によって、祝福を受ける。」という言葉もあります。そして、その約束に基づいて、イスラエルの子孫は祝福を受け、カナン之地を相続する約束も与えられ増した。

しかし、これは直接、私たちにも及んでいる契約です。ガラテヤ書は、キリストを信じる異邦人がこの約束にあずかっていることを教えています。「ガラテヤ 3:8-9 聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。そういうわけで、信仰による人々が、

信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。」したがって、私たちがただキリストにあって神を信じているから、この祝福にあずかっているのです。何かを行なったから、律法を行なったからではなく、何もしないのに約束があるから祝福を受けます。

私たちは、この途方もない神の堅い約束に圧倒されます。「結んだ」という言葉が 9 節にあります。これは、「切り分ける」という意味があります。これは、主がアブラハムと契約を結ばれる時に行われたことです。牛と山羊を二つに切り分けて、その間を通ることによって契約を結びます。これはもし契約を破れば、このように切り裂かれるという意味の、真剣な約束事であることを示しています。ところが創世記 15 章には、アブラハムはその間を通らず、主ご自身のみがそこを通られたことが書かれています。つまり、これは主が一方的にご自身の命をかけて結ばれた契約なのです。主は、どんなことがあっても何としてでも結ぶということをお話しておられます。

これがいかにすごいことがお分かりでしょうか？ 私たちは、どうしても約束を覚えているということに弱いのです。起こったことを思い起こすことをいつもしていないからです。思い出すのは、杉原千畝さんのことです。彼がリトアニアの領事館において、六千人の人に日本を通過するビザを発行したことによって、大勢のユダヤ人が救われました。彼らは「その恩は忘れない。」と言って別れました。そして戦後、彼は外務省からリストラで解雇されたのですが、その命が助けられたユダヤ人の何人かが建国されたばかりのイスラエルの中枢に入っており、何年もかけて杉原氏を探したのです。そして、彼をイスラエルにおいては最高栄誉賞の一つである、「諸国の義人」として数えたのです。さらに、杉原氏に栄誉を与えなかった外務省はそのことを杉原氏とその家族に謝罪しました。選びの民ならではの記憶です。ましてや神は、その千倍にも近い形で、ご自分の約束してくださったのです。

105:12 そのころ彼らの数は少なかった。まことにわずかで、そのうえそこでは、寄留の他国人であった。105:13 彼らは、国から国へ、一つの王国から他の民へと渡り歩いた。105:14 しかし主は、だれにも彼らをしいたげさせず、かえって、彼らのために王たちを責められた。105:15 「わたしの油そそがれた者たちに触れるな。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」

約束が実現すると言っても、それは決して、楽な道のりではありませんでした。アブラハム、イサク、ヤコブは族長でありましたが、僅かな人数の寄留者にしか過ぎませんでした。カナン之地には、数々の王たちがいました。その間を渡り歩いたのですが、危害が与えられませんでした。例えば、シェケムをヤコブの家族は出て行きましたが、それは息子シメオンとレビがその男を虐殺してしまったからです。けれども、主の恐れがその住民を襲ったので、危害を与えなかったとあります。したがって、これからの話は、試練があっても、妨げがあっても、それでも主はご自分の契約にしたがって御業を行っていかれる姿を見ていきます。

3B ヨセフへの試し 16-24

105:16 こうして主はききんを地の上に招き、パンのための棒をことごとく折られた。105:17 主はひとりの人を彼らにさきがけて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。105:18 彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中にはいった。105:19 彼のことがそのとおりになる時まで、主のことは彼をためした。105:20 王は人をやってヨセフを解放し、国々の民の支配者が、彼を自由にした。105:21 王はヨセフを自分の家のかしらとし、自分の全財産の支配者とした。105:22 これはヨセフが意のままに王の高官を縛り、王の長老たちに知恵を与えるためだった。105:23 イスラエルもエジプトに行き、ヤコブはハムの地に寄留した。105:24 主はその民を大いにふやし、彼らの敵よりも強くされた。

16 節の始まりが大事です、飢饉をこの地に招いたのは主ご自身です。飢饉そのものは、もちろん主が願われていることではありません。アダムの罪によって、土地も呪われたものとなりました。しかし、すべてのことに主権を持っておられるのが私たちの神です。その悪いことも用いて、神はご自分の約束を実現に向けて運んでおられるのです。

そしてヨセフにとって、これは大きな試練でした。19 節に、「主のことは彼をためした」とあります。ヨセフが 17 歳の時に夢を見ました。その言葉によって、彼はかえって兄に売られて、エジプトで奴隷の身となり、さらに監獄に入れられました。主の御心になる時に、このように悪いようなことが一時期起こります。しかし、それは人の目から見ての悪いことであり、主は彼をエジプトの支配者とし、そしてその権力によって、ヤコブの家族を飢饉から救い出すためのものだったのです。

そして、エジプトにおいては彼らはゴシェンという肥沃な土地がパロによって与えられました。エジプト人は羊飼いを見下しており、またエジプト人の人種を純粹に保つという人種主義を取っていたので、彼らはエジプト人と混血になることなく守られたままで、そこで主は彼らを大いに増やし、強くされたのです。これらすべてに、神の御手がありました。

4B 出エジプト 25-42

105:25 主は人々の心を変えて、御民を憎ませ、彼らに主のしもべたちを、ずるくあしらわせた。105:26 主は、そのしもべモーセと、主が選んだアロンを遣わされた。105:27 彼らは人々の間で、主の数々のしるしを行ない、ハムの地で、もろもろの奇蹟を行なった。

パロがイスラエルの民を酷く取り扱ったということ自体も、主がそれを行なわれたとあります。ここにも神の主権があります。そして、アブラハムへの契約を守り、それを実行するためにお用いになるという深い御心があります。それは、主が彼らにご自分の奇しい業を行われるためです。

105:28 主はやみを送って、暗くされた。彼らは主のことはに逆らわなかった。105:29 主は人々の水を血に変わらせ、彼らの魚を死なせた。105:30 彼らの地に、かえるが群がった。王族たちの

奥の間にまで。105:31 主が命じられると、あぶの群れが来た。ぶよが彼らの国中にはいった。105:32 主は雨にかえて雹を彼らに降らせ、燃える火を彼らの地に下された。105:33 主は彼らのぶどうの木と、いちじくの木を打ち、彼らの国の木を砕かれた。105:34 主が命じられると、いなごが来た。若いいなごで、数知れず、105:35 それが彼らの国の青物を食い尽くし、彼らの地の果実を食い尽くした。105:36 主は彼らの国の初子をことごとく打たれた。彼らのすべての力の初めを。

エジプトに下された十の災いです。最後が、初子を打つことであり、これをもってパロは無理やりイスラエルをエジプトから追い出したのです。

105:37 主は銀と金とを持たせて御民を連れ出された。その部族の中でよろける者はひとりもなかった。105:38 エジプトは彼らが出たときに喜んだ。エジプトに彼らへの恐れが生じたからだ。105:39 主は、雲を広げて仕切りの幕とし、夜には火を与えて照らされた。105:40 民が願い求めると、主はうずらをもたらし、また、天からのパンで彼らを満ち足らわせた。105:41 主が岩を開かれると、水がほとばしり出た。水は砂漠を川となって流れた。

出エジプトの後における、主の御業です。金銀を持たせました。そしてエジプト人が出て行く彼らに危害を与えないように守られました。そして荒野の旅においては、雲の柱、火の柱、そして肉もうずらによって与え、マナも下さいました。さらに、水も岩からお出しになりました。これらはすべて、出エジプト記に書いてあります。

105:42 これは主が、そのしもべアブラハムへの聖なることばを、覚えておられたからである。

ここが大事です。詩篇 105 篇は、8 節と 42 節が重要聖句です。主が契約を結ばれて、そしてその聖なることばを覚えておられた、ということでもあります。イスラエルの民は、その渦中にいた時はそのことは実感できなかったでしょうが、しかし思い起こせば、主が約束しておられた通りになっていくことを見ることのできるでしょう。主は決してご自分の約束されたことは破られないのです。

そして、この詩篇はおそらく、バビロン捕囚後の帰還民が書いたのではないかとされています。したがって、その全く後の世代に者たちが、自分たちのアイデンティティーがどこにあるのか、それをしっかりと確認する作業でもあったのです。私たちも、主が確かに自分に行ってくださったことを覚えることは必要です。昨日も、ある姉妹がメールでご自身が与えられた恵みを分かち合ってくださいました。どのように主が語られ、導かれておられるのか、それを覚えることは必要です。

そして彼らにとって、モーセに与えられた契約以上に、アブラハムに与えられた契約に思いを寄せたのです。彼らは分かっていたのでしょう、モーセの契約はことごとく違反してしまったこと、それで預言者エレミヤによって神が新しい契約を約束してくださったことをです。自分たちはモーセの律法ではなくて、アブラハムへの契約によってのみ、初めて立つことができると知っていたのでしょ

う。私たちもそこに立たないといけません。神の祝福は、信仰によるのであり律法を行なったからではないこと、です。何か自分がこれこれを行なって、神の祝福を得るのだと考えないことです。あくまでも御霊によって導かれること、主が語られること、主の与えられた思い、徹底して主に聞いて、それに従っていくことによって生きます。何かの規則を作って、その中でクリスチャン生活の箱を作ろうとすれば、必ず破綻します。神の御霊はそのように働かないからです。

5B 約束の地 43-45

105:43 主は御民を喜びのうちに連れ出された。その選ばれた民を喜びの叫びのうちに。105:44 主は、彼らに国々の地を与えられた。彼らが国々の民の労苦の実を自分の所有とするために。105:45 これは、彼らが主のおきてを守り、そのみおしえを守るためである。ハレルヤ。

カナンの地に入れてくださったことを覚えています。このようにして、確かに神はアブラハムに与えられた約束をその通り守ってくださいました。

そして、ここで一つの適用を、詩篇の著者は行っています。「彼らが主のおきてを守り、そのみおしえを守るためである。」とあります。そうです、主はご自分の言葉を覚えて忘れることなく、それを実行されました。今度は、その神の真実に応答して、私たちが主の言葉を覚えて、その中に留まっていることです。約束の中に自分自身を留まらせることです。そうすれば、イエス様が弟子たちに言われたように、この方の言葉を私たちのうちに留まらせていれば、多くの実を結びます。その姿を見ていくのが、教会の醍醐味です。

2A 人の不信実と神の真実 106

106 篇もまた、主の真実をイスラエルの歴史を回想しながらほめたたえている箇所です。しかし、106 篇は人間の不信実を有体に描いています。イスラエルが神の御業を忘れて、主に逆らっている時でさえ、主は真実を尽くしてくださったという内容になります。

1B 主の慈しみ深さ 1-5

106:1 ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。106:2 だれが主の大能のわざを語り、そのすべての誉れをふれ知らせることができよう。106:3 幸いなことよ。さばきを守り、正義を常に行なう人々は。106:4 主よ。あなたが御民を愛されるとき、私を心に留め、あなたの御救いのとき、私を顧みてください。106:5 そうすれば、私はあなたに選ばれた者たちのしあわせを見、あなたの国民の喜びを喜びとし、あなたのものである民とともに、誇ることができるでしょう。

主のまことが慈しみ深い、ということ、また恵みが永久までであるということ、これが再び歌われています。しかし、6 節以降によると、それが彼らの反抗にも関わらず主がその約束を破棄されなかったということです。そしてこの著者は、これまでのイスラエルの不従順から立ち上がり、悔い改め

の心をもって、今、主をほめたたえているのだと思います。この、彼らに与えられた真実に基づく約束を私にも与えられ増すように、と願っています。

2B 紅海での逆らい 6-12

106:6 私たちは先祖と同じように罪を犯し、不義をなし、悪を行なった。106:7 私たちの先祖はエジプトにおいて、あなたの奇しいわざを悟らず、あなたの豊かな恵みを思い出さず、かえって、海のほとり、葦の海で、逆らった。106:8 しかし主は、御名のために彼らを救われた。それは、ご自分の力を知らせるためだった。106:9 主が葦の海を叱ると、海は干上がった。主は、彼らを行かせた。深みの底を。さながら荒野を行くように。106:10 主は、憎む者の手から彼らを救い、敵の手から彼らを贖われた。106:11 水は彼らの仇をおおい、そのひとりさえも残らなかった。106:12 そこで、彼らはみことばを信じ、主への賛美を歌った。

イスラエルの民は、エジプトから出たその直後から、不義を行ないました。それは、紅海が分かれる前に、彼らの宿営のところにエジプト軍が接近してきた時に、モーセに文句を言ったのです。「私たちが荒野で死なせるのか。エジプトにいたほうが良かったのだ。」と。このように、主の慈しみを忘れて、あるいは信じられていないという罪を犯しました。けれども、主はそれでも彼らを救われたのです。そしてエジプト軍を海の中に沈ませるところまで、きちんと導いてくださいました。それで彼らは御言葉を信じて、主への賛美を歌いました。いかがでしょうか、私たちがそのように不平を鳴らしている時でさえ、主はこの教会を、そして個々人のキリスト者を導いておられます。

3B 荒野での逆らい 13-33

106:13 しかし、彼らはすぐに、みわざを忘れ、そのさとしを待ち望まなかった。106:14 彼らは、荒野で激しい欲望にかられ、荒れ地で神を試みた。106:15 そこで、主は彼らにその願うところを与え、また彼らに病を送ってやせ衰えさせた。106:16 彼らが宿営でモーセをねたみ、主の聖徒、アロンをねたんだとき、106:17 地は開き、ダタンをのみこみ、アビラムの仲間を包んでしまった。106:18 その仲間の間で火が燃え上がり、炎が悪者どもを焼き尽くした。

大事な言葉は、13 節ですね、「すぐに、御業を忘れ、諭しを待ち望まなかった」というところです。主が良くてくださっているのにそれを世の生活の中ですぐ忘れます。そして、御言葉を待ち望む時を持っていません。そうすれば、すぐに肉の欲を働かせる中に自分の身を置いてしまいます。ここでは、民数記に出てくる荒野の旅のことで、激しい欲望にかられて、エジプトで食べていたものを食べたい、また肉を食べたいと不満を言いました。それで、神がうずらを与えられましたが、彼らは食中毒にでもなったのでしょうか、病にかかりました。それから、コラの反乱のことも教えておられます。そこでアロンとモーセに逆らいましたが、彼らは生きてまま陰府に投げ入れられました。肉の欲望も私たちの課題ですし、反抗する思い、その高ぶりも私たちの課題です。

106:19 彼らはホレブで子牛を造り、鑄物の像を拝んだ。106:20 こうして彼らは彼らの栄光を、草

を食らう雄牛の像に取り替えた。106:21 彼らは自分たちの救い主である神を忘れた。エジプトで
大いなることをなされた方を。106:22 ハムの地では奇しいわざを、葦の海のほとりでは恐ろしい
わざを、行なわれた方を。106:23 それゆえ、神は、「彼らを滅ぼす。」と言われた。もし、神に選ば
れた人モーセが、滅ぼそうとする激しい憤りを避けるために、御前の破れに立たなかったなら、ど
うなっていたことか。

話を少し戻しています。まだシナイ山のふもとで宿営している時のことです。金の子牛を、まことの
の主をあがめることの代用にしました。私たちは文字通りの偶像礼拝をしなくても、生けるまことの
神の臨在を代用する、すり替えのもので自分を満足させようとしています。主からの声を聞くことは、時
に孤独感を味わいます。けれども、主はご自分を求める者をすぐにその御霊で満たしてくださり、
慰めを与えてくださいます。また慰めを与えるだけでなく、次の新しい働きも用意してくださいます。

106:24 しかも彼らは麗しい地をさげすみ、神のみことばを信ぜず、106:25 自分たちの天幕でつ
ぶやき、主の御声を聞かなかつた。106:26 それゆえ、主は彼らにこう誓われた。彼らを荒野で打
ち倒し、106:27 その子孫を国々の中に投げ散らし、彼らをもろもろの地にまき散らそうと。

これは、カデシュ・バルネアでの出来事です。彼らは不信の罪を犯して、主は彼らを四十年間、
荒野で放浪させるようにさせました。

106:28 彼らはまた、パアル・ペオルにつき従い、死者へのいけにえを食べた。106:29 こうして、
その行ないによって御怒りを引き起こし、彼らの間に神罰が下った。106:30 そのとき、ピネハス
が立ち、なかだちのわざをしたので、その神罰はやんだ。106:31 このことは、代々永遠に、彼の
義と認められた。

バラクとバラムの時のことです。バラムが呪おうとしても、それを主は祝福に変えられました。そ
こでバラムの助言により、イスラエルの宿営にモアブ人の女を入れ込みました。それでイスラエル
の男たちは女と戯れ、彼女たちの持ちこんだ神を拝み始めたのです。それで彼らは滅ぼされそう
になりましたが、ピネハスの仲立ちでその神罰は止みました。

106:32 彼らはさらにメリバの水のほとりで主を怒らせた。それで、モーセは彼らのためにわざわ
いをこうむった。106:33 彼らが主の心に逆らったとき、彼が軽率なことを口にしたからである。

水がなくなったことを民が不平を鳴らして、今度はモーセが怒って、主の聖なることを表さなかつ
たことを取り上げています。

このようにして、何度かイスラエルの民は滅ぼされる危機がありました。そこでモーセやピネハス
など、執り成す人、仲立ちする人を神は起こされて、その仲介によって彼らは滅びを免れました。

私たちも、自分が信仰を捨てるに等しい罪を犯したかもしれません。しかし主は、キリストによる執り成しの祈りを聞いておられます。その信仰が守られています。ペテロのためにイエス様が執り成しをされたように、私たちも執り成しておられます。

4B カナンの地での偶像礼拝 34-43

106:34 彼らは、主が命じたのに、国々の民を滅ぼさず、106:35 かえって、異邦の民と交わり、そのならわしにならい、106:36 その偶像に仕えた。それが彼らに、わなであった。106:37 彼らは自分たちの息子、娘を悪霊のいけにえとしてささげ、106:38 罪のない血を流した。カナンの偶像のいけにえにした彼らの息子、娘の血。こうしてその国土は血で汚された。106:39 このように彼らは、その行ないによっておのれを汚し、その行ないによって姦淫を犯した。106:40 それゆえ、主の怒りは御民に向かって燃え上がり、ご自分のものである民を忌みきらわれた。106:41 それで彼らを国々の手に渡し、彼らを憎む者たちが彼らを支配した。106:42 敵どもは彼らをしいたげ、その力のもとに彼らは征服された。106:43 主は幾たびとなく彼らを救い出されたが、彼らは相計って、逆らい、自分たちの不義の中におぼれた。

これは、カナンの地に入ってからイスラエルの歴史です。士師の時代に、イスラエルは何度となく偶像礼拝に陥りました。ダビデとソロモンの統一王朝の後には、再び偶像礼拝を行ないました。アッシリヤによって北イスラエルは捕え移されました。それからユダもマナセの時に、ここに書いてあるように、息子や娘をいけにえに捧げました。偶像に対してのものですが、それが悪霊のいけにえ、と言い換えられています。事実、偶像に対して捧げられているのは悪霊に捧げているものです(1コリント 10:20)。そのために、彼らを主は敵の手に引き渡されました。

大事なものは、43 節の言葉です。「主は幾たびとなく彼らを救い出されたが」主は何度となく、士師や預言者によって救い出されたのです。私たちは、主によって救い出されたことさえ忘れてしまいます。そして再び罪の中に陥ってしまうのです。

5B 契約を思い起こされる主 44-48

106:44 それでも彼らの叫びを聞かれたとき、主は彼らの苦しみに目を留められた。106:45 主は、彼らのために、ご自分の契約を思い起こし、豊かな恵みゆえに、彼らをあわれまれました。106:46 また、彼らを、捕え移したすべての者たちから、彼らがあわれまれるようにされた。106:47 私たちの神、主よ。私たちをお救いください。国々から私たちを集めてください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを勝ち誇るために。106:48 ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。すべての民が、「アーメン。」と言え。ハレルヤ。

神は、彼らの度重なる不従順にも関わらず、それでも契約を思い起こされました。彼らは、捕えられた地バビロンから戻ることができました。そこに溢れるばかりの憐れみがあります。彼らに対する深い赦しがあります。先に、彼らは「姦淫」の罪を犯したとありました。姦淫の罪を犯しても、そ

れでも主はそれを思い出さず、赦してくださいました。「神がキリストにおいてああんたがたを赦してくださいましたように、互いに赦し合いなさい。(エペソ 4:32)」

このように神は契約を忘れない方です。105 篇では、彼らが試練の中を通っても、むしろその試練の中に主がご自分の約束の実現のための働きを既に行われていました。そして、確かにその通りになっていくのを確認します。そして 106 篇では、彼らの不従順があっても、豊かな罪の赦しと憐れみのゆえに、やはり神の真実は変わらず、その契約を変えられないのです。ゆえに彼らの不従順は罰さないといけませんが、いつまでも怒ってはおられない。憐れみを注いでくださいます。これぞ、恵みの福音です。「ローマ 5:20 律法がはいって来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。」もう一度、私たちは自分の罪が赦されたことを神に感謝し、そして主をほめたたえたいと思います。

3A あらゆる苦しみからの救い 107

そして第五巻、107 篇に入りたいと思います。先に 106 篇 44 節において、「彼らの叫びを聞かれたとき、主は彼らの苦しみに目を留められた。」とありました。自分たちの愚かさ、主への背きによって、私たちはいろいろな苦しみの中に入ります。けれども、私たちがその苦しみから叫ぶと、主は憐れんでくださり、私たちの祈りを聞いてくださるということです。

1B 四方からの帰還 1-3

107 第五巻 107:1 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」
107:2 主に贖われた者はこのように言え。主は彼らを敵の手から贖い、107:3 彼らを国々から、東から、西から、北から、南から、集められた。

107 篇もまた、主の慈しみを歌っています。そして恵みが永久まで続くという、105,106 篇につながるテーマになっています。そして、主がアブラハムの契約の延長で、捕えられた民を約束の地へと再び集めてくださることを歌っています。バビロンから彼らは帰ってきました。しかし、ここはもっと大きな視野での帰還です。終わりの日に、世界中に離散しているユダヤ人が約束の地に戻ってくる、イエス・キリストが再び来られる時に戻ってくることを預言しています。そして、離散の地には苦しみが付き物でしたが、いろいろな場面での苦しみから主によって助け出された例を取り上げます。

2B 放浪する生活 4-9

107:4 彼らは荒野や荒れ地をさまよひ、住むべき町へ行く道を見つけなかった。107:5 飢えと渇きに彼らのたましいは衰え果てた。107:6 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救い出された。107:7 また彼らをまっすぐな道に導き、住むべき町へ行かせられた。107:8 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。107:9 まことに主は渇いたたましいを満ち足らせ、飢えたたましいを良いもので満たされた。

荒野の旅をしている時に、このような境遇に陥ったことを思い出しています。これは単に、物理的に彷徨ったことを意味しているのではなく、霊的な意味でもそうです。彷徨ってしまったのは、主の命令に聞き従っていなかったから、起こったことです。ですから、放蕩息子はその良い例です。放蕩息子は、自分の惨めな姿について「我に返った」と書かれています。いつ、自分の今の姿に気づき、我に返ることができるか、であります。その時に主を呼び求めて、神に近づくなれば、主は豊かな憐れみをもって、その迷いから引き戻して下さいます。そして、彷徨っていた時に感じていた飢えや渴きを満たして下さいます。

3B 苦役 10-16

107:10 やみと死の陰に座す者、悩みと鉄のかせとに縛られている者、107:11 彼らは、神のことばに逆らい、いと高き方のさとしを侮ったのである。107:12 それゆえ主は苦役をもって彼らの心を低くされた。彼らはよろけたが、だれも助けなかった。107:13 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。107:14 主は彼らをやみと死の陰から連れ出し、彼らのかせを打ち砕かれた。107:15 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。107:16 まことに主は青銅のとびらを打ち砕き、鉄のかんめきを粉々に砕かれた。

枷と苦役によって縛られている苦しみです。これは、主の言葉に逆らっているからだ、いと高き方の諭を侮ったからだ、とあります。そうですね、私たちが神の奴隷であることをやめれば、罪の奴隷になります。神に命じられることが、自分を不自由にしていると思っていた所が、実は自分を罪から自由にしてきていたのだと、後で気づきます。罪を犯せば、その罪を自分が支配できる、制御できると思っても、実はその罪に自分が支配され、苦しみめられ、枷をはめられ、苦役についていられるのです。しかし、そこから主に向かって叫べば、主はその枷を打ち砕いて下さいます。イエス様は、真理は私たちを自由にすると言われました。

4B 病 17-22

107:17 愚か者は、自分のそむきの道のため、また、その咎のために悩んだ。107:18 彼らのたましいは、あらゆる食物を忌みきらい、彼らは死の門にまで着いていた。107:19 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。107:20 主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。107:21 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。107:22 彼らは、感謝のいけにえをささげ、喜び叫びながら主のみわざを語れ。

病という苦しみです。背きの罪のため、その咎のために悩んだとありますから、何らかの罪を犯したことによって病に伏しているのでしょう。全ての病が罪からのものではありませんが、罪からのものもあります。イエス様は、中風の者に対して、「子よ、あなたの罪は赦されました。」と言って、その中風が彼の罪から来たことを、その罪の赦しをまず対処されました。性病などは、まさに罪から来ることがしばしばですね。しかし、この苦しみから主に叫ぶと、「滅び」とありますが、死から免

れることができました。体も癒されたわけです。

5B 過信による失敗 23-32

107:23 船に乗って海に出る者、大海であきないする者、107:24 彼らは主のみわざを見、深い海でその奇しいわざを見た。107:25 主が命じてあらしを起こすと、風が波を高くした。107:26 彼らは天に上り、深みに下り、そのたましいはみじめにも、溶け去った。107:27 彼らは酔った人のようによろめき、ふらついて分別が乱れた。107:28 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から連れ出された。107:29 主があらしを静めると、波はないだ。107:30 波がないので彼らは喜んだ。そして主は、彼らをその望む港に導かれた。107:31 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。107:32 また、主を民の集会であがめ、長老たちの座で、主を賛美せよ。

遭難しかけている苦しみです。ここでの問題は、「高慢や野心」でありましょう。自分たちはできる、やれると思って、主に伺うことなくして行ったことで大変なことになります。パウロがカイザリヤから、囚人としてローマに連れて行かれる船のことを思い出します。百人隊長は、パウロの言葉よりも船長の言葉を信用して、冬を越さずに海を渡ろうとしました。ところが遭難しかけました。私たちは、自分たちはできると思いがやすいです。そこで、自分で新しい事業、新しい人生をしようとするのですが、そこで環境が変化することによって、いとも簡単に挫折したり、失敗します。主の知恵が必要です。

6B 知恵のある者 33-43

そして33節からは、主が環境を変えられることによって、そこにある神の御心を知るための事例が二つ書かれています。一つは土地の潤いです。

107:33 主は川を荒野に、水のわき上がる所を潤いのない地に、107:34 肥沃な地を不毛の地に変えられる。その住民の悪のために。107:35 主は荒野を水のある沢に、砂漠の地を水のわき上がる所に変え、107:36 そこに飢えた者を住まわせる。彼らは住むべき町を堅く建て、107:37 畑に種を蒔き、ぶどう畑を作り、豊かな実りを得る。107:38 主が祝福されると、彼らは大いにふえ、主はその家畜を減らされない。

主が荒野に変えられる時、それは住民の悪のためであるということを気づかせるために、それを行われます。そして、そこで彼らをへりくだらせた後に、荒野を元に戻して実り豊かにさせ、そして大いに祝福されるということを行われます。このような変化を与えることによって、自分たちではなく主なる方が神であることを悟るようにされるためです。

107:39 彼らが、しいたげとわざわいと悲しみによって、数が減り、またうなだれるとき、107:40 主は君主たちをさげすみ、道なき荒れ地に彼らをさまよわせる。107:41 しかし、貧しい者を悩みか

ら高く上げ、その一族を羊の群れのようにされる。107:42 直ぐな人はそれを見て喜び、不正な者はすべてその口を閉じる。

自然環境ではなく、政治環境の変化について述べています。横暴な君主たちが蔑まれ、そして貧しい者、悩んでいる者たちが高く上げられます。

107:43 知恵のある者はだれか。その者はこれらのことに心を留め、主の恵みを悟れ。

この自然環境や政治環境の違いの中で、知恵を得て、主の恵みを悟れと言っています。ここは大事ですね、私たちは悪いことが起こるとそれは悪いことのままにします。けれども、実はその変化というのは同時に起こっていることも多いのです。悪がはびこり、しかしその背後で、光の業が行われていたりします。悲惨な殺人事件の背後で、遺族と犯罪人の和解の働きが行われているかもしれません。今で言うならば、キリスト教徒が激しく迫害されているニュースの中で、反対にキリスト者がこれまでになく爆発的に増えている、ということなのです。なので、主が物事を低められる時に、実は高く上げるという働きも行なわれるのです。

その理由は、主の御名が高められるためです。人々が自分のことだけ、人間のことだけに目を留めているところから、主がおられることを知るためにこのようなことを行われます。それゆえ、「知恵のある者は、これらに心を留め、そして主の恵みを悟れ。」と言っているのです。

4A 揺らぐ確信 108

最後、108 篇は、この主の恵みを思って、楽器を奏でて喜び叫んでいる詩篇になります。この詩篇は、57 篇の一部と 60 篇の一部を組み合わせて作っているものです。詩篇の中に時々見られるものですが、その編集そのものに作者の思いが込められています。

1B 揺るがぬほめ歌 1-5

108 歌。ダビデの賛歌 108:1 神よ。私の心はゆるぎません。私は歌い、私のたましいもまた、ほめ歌を歌いましょう。108:2 十弦の琴よ、立琴よ。目をさませ。私は暁を呼びさましたい。108:3 主よ。私は、国々の民の中にあつて、あなたに感謝し、国民の中にあつて、あなたにほめ歌を歌いましょう。108:4 あなたの恵みは大きく、天の上にまで及び、あなたのまことは雲にまで及ぶからです。108:5 神よ。あなたが天であがめられ、あなたの栄光が全世界であがめられますように。

ダビデの賛美の心、歌をうたう勢いが伝わってきます。「暁を呼び覚ましたい」とまで言っています。暁は自然に出てくるものですが、それを、音楽を奏でて引き起こしたいという熱情を持っています。そして、神を知らぬ人々にこのことを伝えたいと願っています。そして、この恵みが天の上にまで及んでいると言っています。そして、神の栄光が全世界であがめられます。

2B 愛されている者の救い 6-13

ところが人間というのは、このような揺るぎない賛美をしながら、なおかつ実際生活において、心が揺らぐことがあります。1 節で「揺るぎません」と言いながら、これから動揺する心を述べています。ここが、この詩篇の味噌でしょう。私たちは時に、信頼を持ち主を待ち望みながら、なおかつ差し迫る危機に直面して、神を信頼する葛藤の中に陥ります。

108:6 あなたの愛する者が助け出されるために、あなたの右の手で救ってください。そして私に答えてください。

午前礼拝で学びましたように、北のアラムの国に戦っているところが、南のエドムから攻撃がやってきました。

108:7 神は聖所から告げられた。「わたしは、喜び勇んで、シェケムを分割し、スコテの谷を配分しよう。108:8 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムもまた、わたしの頭のかぶと。ユダはわたしの杖。108:9 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上に、わたしのはきものを投げつけよう。ペリシテの上で、わたしは大声で叫ぼう。」

「あなたの愛する者」と言って、半ば甘えるように主に訴えているダビデです。それに対して、主も喜んで、わたしはこれこれの国々を与えると答えてくださっています。その中に、エドムの名も上がっています。

108:10 だれが私を要塞の町に連れて行くでしょう。だれが私をエドムまで導くでしょう。108:11 神よ。あなたは私たちを拒まれたのではありませんか。神よ。あなたは、もはや私たちの軍勢とともに、出陣なさらないのですか。108:12 どうか敵から私たちを助けてください。まことに、人の救いはむなしいものです。108:13 神によって、私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけられます。

主ご自身を少し詰っているように、聞こえるのですが、実際は、主に信頼したいということの強い表明です。主が共に行って、戦ってくださらないなら、それは人の助けを借りた戦いであり、神ご自身の戦いではない。それでは、あまりにも空しいということです。モーセが主なる神と話していた時も、金の子牛事件で神は、使いだけを送ると言われたところ、モーセが、「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。(出エジプト 33:15)」と願いました。

私たちの教会、交わりにも同じ祈りを持ちたいですね。主がおられるのでなければ、主がいっしょに行ってくださいるのでなければ、私たちが何をしても空しいです。主に拠って初めて、私たちも力ある働きをします。